
猫もしゃくしも

ブッチャー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

猫もしゃくしも

【Nコード】

N2109H

【作者名】

ブツチャー

【あらすじ】

元捨て猫、ミーちゃんと、情けない飼い主、定吉さんの少し変わった日常

我輩は猫である。名は

「ミーちゃん、お昼ご飯だよ」

……………ミーちゃんである

「ナー」

分かった今、行く、と伝えたが、通じているかどうか

「あ、お部屋で食べたいんだね、直ぐに持って行くから」

このなよっとした声の男が我輩の飼い主、定吉。

今となっては珍しい名前らしいが、ミーちゃんと名付けられた我輩よりは幾分マシであろう

「今日は猫まつしぐらなキャットフードだよ」

定吉はリビングのソファで寝そべっている我輩の元へ、キャットフードの皿とミルクを持って来る

「……………ナー」

ここのメーカーはマズイと言ったのだが……全く使えない飼い主だ
我輩がソファから降り、渋々キャットフードを食べると、定吉はその長身を丸めて我輩と同じ視点にし、嬉しそうに我輩の食事姿を

見た

……邪魔くさい

「ニャー！」

定吉の眼鏡に猫パンチ。眼鏡が床に転がった

「うわっ！ ひ、ひどいよミーちゃん。ええと、眼鏡、眼鏡」

定吉は眼が悪い。一度眼鏡を見失うと、10分は捜し続ける

我輩は今のうちに食事を済ませ、ベランダへ退散

「ああ、あった、あった……あれ？ ミーちゃん？」

「……………ニャー！」

行ってくるぞ、定吉。そんな挨拶をし、我輩は大空の下へ足を踏み出した

外は自由。昔そんな事を言う野良猫が居た

しかし真つ当な生き方をする猫にとっては、外は決して自由な場所ではない

飼い主に捨てられた我輩がそれに気付いた時、ようやく子猫から、ちよっぴり成長した青二才猫へとなれたのだ

それを教えてくれた長老、タロウさんは、今日も空き地の土管の上で寝そべっていた

《おお、ミーちゃん。今日も来てくれたんじゃない、ありがとよ》

《我輩が来たいから来たのだ。礼を言う必要は無い》

《ほっほ。それでも嬉しい時はお礼を言いたくなるものじゃよ。…さて、今日は変化の術じゃ》

《変化の術？》

《そうじゃ。これを使えば姿を人間に変える事が出来る》

《人間に？ 別に変わる必要は無いな》

人間になったからと言って何が楽しいのか。数は多いし、猫からは嫌われてるし

《ふむ。まあ覚えて損は無い、簡単な言葉と動きでなれるでよ》

《……仕方ない、聞いてやる》

太郎さんの講習や話を聞いていたら、すっかり日も暮れて夜になっていた

定吉が心配しているかも知れない

定吉など別にどうでもいいが、ほんのちょっとだけ急いでやる
そして見えて来た我が家。我輩用の出入口からこっそり入って、足
を軽く拭く

「……………にゃ」

暗い玄関。キッチンへ続くドアの前だけは明るい

我輩は少しだけ開いているそのドアへ、こそつと侵入した

「う、うう……………明日香さん!!」

「にゃ!?!」

定吉はキッチンのテーブルに座り、号泣している

「優し過ぎるから嫌いとは一体どういう意味なのですか!!」

「……………ニヤン」

どつやら定吉は彼女にフラれて泣いているらしい。情けない奴だ

「明日香さん、うう」

仕方無いな

「……………ナー」

「あ、ミーちゃん……慰めてくれるんだね……うう明日香さん！
！」

定吉の足に擦り寄り、甘えた声を出してやったが、余り効果が無いらしい

……全く困った飼い主だ

「ニヤン！」

もう知らん。我輩は寝る

我輩は寝室へ入り、端っこにある我輩専用のベッドで丸くなる

「明日香さん、明日香さんあーすーかーさん……！」

「……………」

うるさい。しかし我輩に出来る事など無いので、耳を伏せ強く目を
つぶる

そう、我輩には何も出来ない。我輩は人間ではなく、猫なのだから

……

……なら我輩が人間だったら？

「……………ニヤ！」

試しだ、試し！ 太郎さんが言った事が本当かどうか試してやる……！！

「にー、にー、ニャンニャン。ニヤ、ニヤニヤニヤー!!」

くるっと後ろに一回転!

ボン! 突然の煙

「うわ! ゴホ、ゴホ……にゃんだ?」

煙が晴れ、寢室の鏡に写った我輩の姿は、自慢の毛並みに負けず劣らずの黒い長髪を持つ、碧色で鋭い目つきの人間の姿だった

「……………本当に、にゃれた」

なるほど、このように変化をするのか

「……………せっかくだ。ついでに少し慰めてやるにゃ」

あくまでもついでに、だ

「うう、明日香さん……………」

定吉はキッチンのテーブルで、まだメソメソと泣いていた

「おい」

「え? ……な!? だ、誰!」

「ミーちゃんにゃ。一緒に寝てやる……………今日だけにゃよ?」

「え？ ええ!？」

「うるさいにゃ」

定吉の腹に猫パンチ

目を回し、ぐたーとした定吉をベットへ担いで連れて寝かせる

「この胸でにゃくが良い、定吉」

我輩も定吉を胸で抱きしめる様にして横になった

「…………う、うん。…………硬い、硬いよ明日香さん」

「にゃ？ ん」

まあ、我輩に柔らかさを求められても困る

「…………しかし、戻れるのにかにゃ？ この身体」

泣き疲れて眠る子供の様な我が飼い主を数回舐め、我輩は若干の不安と共に眠りに就くのであった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2109h/>

猫もしゃくしも

2010年11月21日02時54分発行